



「明るく」あいさつができる
 「仲よく」そうじができる、
 「正しく」上級生が手本を示す

平成30年11月1日
 北九州市立藤松小学校
 校長 下田 秀司

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

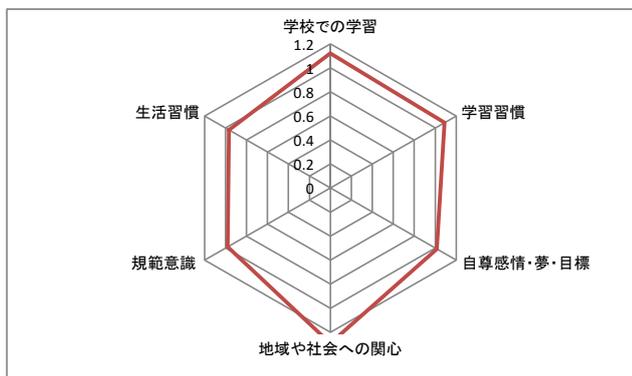
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・主語と述語との関係などに注意して文を書く問題の正答率が全国平均を上回っている。	上回っている
国語B	・推薦する理由を明確に伝える問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・伝記を読んで、心に残ったことについて自分の考えをまとめる問題の正答率が全国平均を上回っている。	上回っている
算数A	・混み具合の比べ方や円周率の意味について問う問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・円周率の意味についてよく理解している。	上回っている
算数B	・敷き詰めた模様の中から条件に合う図形を見いだす問題の正答率が全国平均を上回っている。	上回っている
理科	・「関節」や「堆積」など「自然事象についての知識・理解」を問う問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・実験結果から考察を記述するなど「科学的な思考・表現」を問う問題の正答率が全国平均を上回っている。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が、昨年度(5年生時)の調査より増加した。また、学校の授業以外に普段(月～金)1日当たり1時間以上勉強をする児童の割合も増加した。 ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が、昨年度の調査より増加した。日々の学習の中で、話し合い活動に取り組んでいる成果が出たと考えられる。 ・自分にはよいところがある、将来の夢がある、と考える児童の割合が高く、自己肯定感の高まりが見られる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・基礎的な知識・理解の定着を図る補充学習(時間割に設定済み)やこまめな診断テスト(各教科での練習問題やミニテスト)などを継続して行う。
- ・自分の考えを深めたり、広げたりするための学級での話し合い活動の更なる充実に関心をもち、学習での話し合い活動の常態化、話し合い形式の多様化、児童の話し合いの技能の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭での生活習慣をチェックする期間を設け記入させる「生活がんばりカード」に継続して取り組み、家庭と連携して子どもを育てる風土づくりを行う。
- ・「家庭学習用のノート」及び「生活がんばりカード」での家庭学習の取組を啓発する。
- ・家庭での読書を勧め、読書カードや家庭チャレンジハンドブックの活用を強化する。